

市政ニュース

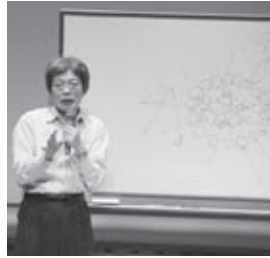
アートスクールロ 地域文化フォーラム

「地方都市の文化創造—未来の世代のために—」開催

11月17日、地域文化フォーラムを豊岡市民プラザで開催しました。

基調講演では、劇作家・演

出家で大阪大学教授でもある平田オリザさんが、「新しい広場を作る—劇場を核にした街作り—」をテーマに講演されました。



▲講演する平田オリザさん

社会における芸術の役割など、さまざまなことを具体例を挙げて話しました。

また、パネルディスカッションでは、コーディネーターに、(株)ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室長の吉本光宏さんを迎え、パネラーとして平田さん、

富良野メセナ協会代表・篠田信子さん、兵庫県芸術文化協会理事・木村光利さん、中貝市長が参加しました。



▲パネルディスカッションの光景

篠田さんは、富良野市民の文化活動を報告し、木村さんは県の芸術・文化振興ビジョンと現状を、平田さんは本市の施設活用策などを提言しました。吉本さんは、最後に、市にも文化ビジョンが必要とまとめました。

平田さんは、「本物の素晴らしい芸術に触れ、地域で創り、地域で楽しみ、地域同士で回していくネットワークを作っていく『ソフトの地産地消』がこれからの地域の競争力になる。まち全体が文化力をつけなければ未来はない」と語り、文化によるまちの再生や広場(劇場)の効用、

「ようがもり」 祢布ヶ森遺跡出土木簡が

テレビ番組「世界ふしぎ発見!」で紹介されました

祢布ヶ森遺跡(日高町祢布)出土の「九九木簡」が、テレビ番組「世界ふしぎ発見!」の11月の放送で紹介されました。

「九九木簡」は、平成20年の祢布ヶ森遺跡第41次調査で見つかった木簡の一つです。

番組内では、「平安時代の役人が漢字以外に木簡に書いて練習したものは何か?」という形で出題されました。



▲九九木簡

木簡には「三九廿四」(3×9=24)と誤って書かれていて、当時の役人も苦労して九九を覚えていたことが伺えます。これは、平安時代の役人の生活を知る上でも貴重な資料です。

木簡は、1月17日(火)まで、但馬国府・国分寺館で特別展示しています。

降雪シーズン到来!

豊岡市除雪隊発隊式開催

12月1日、総合体育館東側駐車場で豊岡市除雪隊発隊式を行いました。

本市では、積雪深が15センチメートル以上になると、午前4時から8時までをめぐり、市道の車道618キロメートルと歩道107キロメートル(計約700キロメートル)は、豊岡市から岩手県花巻市の直線距離に相当)を、市と委託業者の除雪車167台で除雪します。



▲中貝市長が除雪隊(市職員)を激励

「主な市政の動き」

11月

- 15日 市内小・中学生の「届けたい お米と心を東北へ」によるお米・メッセージ発送
- 17日 地域文化フォーラム
- 18日 無料職業紹介所「ジョブ・サポ豊岡」フェイสบックで発信開始
- 19日 防災学習会
- 21日 仲田光成記念第11回豊岡全国かな書展(21日)
- 22日 市役所新庁舎食堂運営者決定

- 24日 本市職員、第53次南極地域観測隊越冬隊員として日本出発
- 25日 豊岡市認知症フォーラム
- 27日 豊岡市消防本部年末警戒発隊式

12月

- 1日 豊岡市消防本部年末警戒発隊式
- 5日 豊岡市除雪隊発隊式
- 6日 「玄武石の玄さん」の新年用年賀状イラスト公開
- 10日 本市出身JAXXA職員・谷垣文章さんによる2小学校講演会
- 10日 コウノトリ野生復帰学術研究発表会

「極地で環境保全に従事」

第53次南極地域観測隊越冬隊員の出発激励会が開催されました

11月21日、第53次南極地域観測隊越冬隊員として派遣される本市職員(宮下泰尚)の出发激励会が城崎小学校で開催されました。

この会は、出発前に激励しようとして、本市職員の出身校の城崎小学校児童会(5・6年生)が計画したものです。

激励会では、職員が南極派遣に応募した思いを語りました。また、児童の「質問コー

ナー」も設定され、「南極ではどんな仕事をするのですか」「どんなものを持つていきますか」「南極でシャボン玉を飛ばすとどうなりますか」「雨は降りますか」など、さまざまな質問が出ました。

本市職員は、11月25日に豊岡市を出発し、成田空港から飛行機でオーストラリアへ向かい、オーストラリア・フリーマントルから南極観測船

「しらせ」に乗船し、12月中旬に南極へ到着する予定です。



▲南極で着る防寒服を紹介する市職員

「仕事で培った技術・経験を生かして」

市ホームページの「コウノトリ関連ページ」をリニューアル

市では、環境と経済の共鳴を加速させるため、12月15日から市ホームページの「コウノトリと環境」ページを「コウノトリと育む」に変更し、画面と構成をリニューアルしました。

変更にあたっては、NPOの協力を得て、5人のプロボノワーカー(職業上持っている専門的な知識・技術や経験を生かして、ボランティアで社会貢献する人)の手腕を借

り、マーケティング手法(情報収集↓分析↓何を、誰に、どのように伝えるか検討)による見直しを行いました。

新しいホームページでは、コウノトリ関連の取組みによる付加価値を伝え、必要な情報へより到達しやすくなっています。

【市ホームページアドレス】
「コウノトリと育む」ページ
市ホームページ <http://www.city.toyooka.lg.jp> を開く ↓カ



▲リニューアルしたページ(抜粋)

テゴリー「コウノトリと育む」をクリック

中貝市長の徒然日記

連載50回到達!

行動する子どもたち

今年の9月。市長室に4人の小学生がやってきました。「私たちは14の小学校で話し合っ、自分たちで作って

いるお米を東日本の小学生に送ることにしました。でもどうやって送るか、分かりません。そこで市長さんに教えてもらおうとやってきました」

「君たちは偉いねえ。被災地の人たち、きつと喜ぶよ」

「豊岡市は、今も南三陸町に職員を派遣しているから、南三陸で受け取ってもらえるか調べてみます。それでいい?」

子どもたちはうなずいています。おもむろに、私はあらかじめ思っていたことを切り出します。

「でも、お米を送るにはお金が必要です。一人一人に配るなら、袋代だっているよね。市役所が費用を出すことは簡単だけど、せっかくここまで頑張ったんだから、もう一歩。そのお金、自分たちで集められない?それでも足りなかつたら、市役所が出すから」

「はい、分かりました」と言ったものの、少し釈然としな顔つきで子どもたちは帰っていききました。

ここからです。子どもたちは再び話し合い、まず運送会社に行つていくら費用が掛かるか尋ねます。次にJ.A.袋詰め費用を尋ねます。

今度はお金集めです。運動会で募金箱を持って呼び掛けたり子どもたち。空き缶を集めてお金に換えた子どもたち。そして11月15日。子どもたちが作った756キロの米が

東北に向かって万歳の中を出發しました。市内中学生の激励メッセージも一緒です。その活動と一人一人受け取る南三陸の子どもの姿がテレビで放映されました。

奈良市在住の男性から市役所にメールが届きました。「おじさんは涙が止まりません。こんな子どもたちがいる豊岡はきつといい所なんですよ。子どもたちがいるがどうして伝えてください」

子どもたちが集めたお金は11万7519円。足らずはJ.Aと運送会社がおまけしてくれました。